

イマカンの変遷について

于 曉 飛

はじめに

イマカンは、中国少数民族の中で人口が最も少ないと言われているホジェン族に口承で伝わる叙事詩で、語りの部分と謡の部分がある。ホジェン族は、かつては中国黒竜江（アムール河）・松花江・烏蘇里江流域に住み、狩猟・漁業・採集などを主な手段として生計を立てていた。一九三〇年代、凌純声は、ホジェン族の風俗習慣・宗教・言語・物語・民謡など広い分野の文化調査を実施し、「松花江下游的赫哲族」を著した。これは、一九五〇年までホジェン族の文化を著した唯一の詳細な文献である。その中で、彼が採取したホジェン族の伝承物語は十九編ある。「物語には、語りの中に謡があるが粗筋だけを記録した」と述べており、近年イマカンと呼ばれたものである。しかし、彼の著書には、物語の粗筋の漢語訳しかなく、イマカンの本来の姿を見ることは出来ない。

凌は、この研究の中で、同時に民謡も二十七曲採取した。その中に物語に関連した民謡四曲がある。彼は、四曲がどの物語のどの部分に関連しているかを示しているが、その民謡は物語の中で実際に歌われたとは明言していない。その謡の形式は、シャーマン神歌の形式によく似ている。しかし、一九八〇年代になるとイマカンの謡には、シャーマン神歌に似た形式が、一曲のシャーマン儀式の歌を除いて、全く見つからない。イマカンの謡が、シャーマン神歌の形式から、次第に民謡の形式に変遷したと思われるが、この小稿はいくつかの資料を参考にして、この動向について考察を試みるものである。

一 一九三〇年代の民謡

(1) 凌純声採録のホジェン族の民謡

凌は民謡の採取方法について「録音機がないので、一曲ずつ習い覚えた。五夜費やした歌もあった。覚えてから帰るまで、

忘れないため、毎日二十七曲を一度は歌った。調査から帰り、上海で友人の手を借り、整理した。楽譜を見て演奏できるが、音がわかるホジエンの人がいないので、この方法に対する批評は聞けなかった」と述べている。「凌純声 一四七頁」

凌が採取した二十七曲「凌純声 一四八―一九三頁」のうち八曲が男歌で、十九曲が女歌である。男歌の四曲が物語「ムト・ガガ」「シルダル」に関係した歌である。その形式は、次に紹介する歌の中の「ejexen eigeng (夫よ)、enani (リフレイン)」の歌詞のように「短い文+リフレイン」の一定の規則を有するもので、ここでは定型リフレインと呼ぶことにする。他の曲は、始めと終わりにリフレインの句があり、歌詞は散文で、所々にリフレインの句が挿入された形で、これを不定形リフレインと呼ぶことにする。

凌純声は国際音標文字を使用して、ホジエン語を表記している。以下に出てくる各民族のシャーマン神歌の表記もそれぞれ異なっている。比較しやすくするため、本稿は筆者が提案した表記法を使い、話を進める。

(2) 物語に関連した民謡

物語に関連した凌純声採取の民謡三曲を紹介する。

① 凌純声採録歌一番の「スワニが夫王に別れを歌う」

この歌は、「シルダル」の内容に沿った歌である。シルダルの妻スワニは、賢く淑やかで、武芸に長けており、夫と共に長年

遠征に出ていた。しかし身ごもり、子を産むため故郷に帰ることになる。そのとき夫に別れをつけ、夫の遠征を励まして歌う。「enani」はリフレインであり、短い文や句の後に必ず付いている。

xerire xerire	enani xere xere	enani xeri xeri	enani
ejexen eigeng	enani xanixeng xaxa	enani doridinu	enani
		夫よ、夫よ、聴きなさい	
bueren barkon	enani nani goruko	enani geereye	enani
		敵地はまだまた遠い。	
gji-xai	enani dedu-wodu	enani durune-re	enani
		娘を奪うな	
gixai	enani fujinendu	enani furu dere	enani
		娘を奪うな	
ejenxenne	enani banxani	enani gorukore	enani
		エジエンよ、敵地はまだ遠い。	
gungoga	enani goton gire	enani geereye	enani
		敵国を討ち、異国を討ち	
yala-woa	enani yanxurire	enani geereya ejen-mo	
		彼らを負かし、捕らえれば	
etere	enani xamo namnire	enani xeri xeri	enani
		エジエンが彼らを捕えれば、	
guru gulu-ni	enani fureguni	enani geereye	enani
		彼らは貴方を偉大と敬う。	
yoxon ame	enani iba kanni	enani geereye	enani

村全部を持ち帰り、捕虜にせよ。

gasyen anme	enani kaajimi	enani ejemmo etemi	enani
tari erindu	enani dedu dereflumi	enani geeerye	enani
deduwoa	enani guriumi	enani geeerye sagedire	enani
mafa are	enani susu suixade	enani geeerye	enani
eme batu	enani eme xotoxonde	enani	城を築きエジエンとなり住み、
ejenxen	enani temi barduri	enani geeerye	enani
xeri xeri	enani geigen geige	enani geeerya	そこを治めなさい。

② 凌純声採録歌三番の「ムト・ガガ月へ奔る」(ムト・ガガの歌)

これは、物語「ムト・ガガ(ムト娘)」の歌である。英雄トルガオが狩りにゆき山野の中で宿をかりる。その宿の老婦の次女ムトを妻とするが、彼女が醜いのでトルガオが嫌う。元仙女のムトは、トルガオが冷淡なので、元の美しい姿に戻り、雲に乗り月へ行こうとしている。彼女は雲の端に立ち、トルガオに歌う。

xeri xeri enani
xeri xeri enani ge-i-ge ni ge enani geeerye enani

xeri xeri enani eri eri enani geeerye enani

gaki keci enani garu e-i-si enani	私	私が鳥の様にみにくいから嫌う
sak-sak-ki keci enani	カササギの様に	
sari e-i-si esi xono enani	礼儀をしろないから嫌う	
bieya enani bana xorendu enani	私は天上に戻る。	
bisidire enani tarigine takatu enani	美しい倉には	
lerigine li-e-ji enani xoren-dulani enani	稲穂がある。納屋の中に	
enemiko enani	入ろう。	
xeri xeri enani eri eri enani geeerye		

③ 凌純声採録歌四番の「モトウ・ガガ月へ奔る」(トルガオの歌)

これは、トルガオが雲の端に立つ美しい天女のムトを見て、戻ってくれるように願う歌である。

Mutu gere enani dedu gege enani	ムト	ガガよ娘	ガガよ
fujin gege enani ge-e-re-ye	姫	ガガよ	
Mutu gege enani ausiki enesi enani	ムト	ガガよ何処へ	行く
ilato kuisi enani geeerye	何処へ	奔る	
ge-i-ge ni ge enani geigeni geige enani			
xeri xeri enani geeerye			
Mutu gege enani doriduru enani	ムト	ガガよ聴きなさい	
gege mi-au-ni enani geeerye		ガガの心の中を聴け	
xeri xeri enani xeri xeri enani			

ge ge-t-ge enani geereye

Dedu gege enani mi-au-duru enani 娘 ガガよ私は貴女の心の上に

mi-au koro enani geereye 私 は貴女の心の中に

Tukusu teki enani e-u-r-i-gi enani 雲の端から降りてきなさい

moda e-r-i-gi-ru enani geereye 木の上に 降りて

(3) 一九三〇年代のイマカン

「シルダル」「ムト・ガガ」の歌は、定型リフレインの形式である。このような形式に固定されていた理由は、長い間口承された物語であること、人々に共感を与えていたことなどが考えられる。

凌は、なぜ他の物語の歌を採録しなかったのか。彼は、物語に歌があったがあらずじのみを採録したと記している。大方の物語には歌があったと思われる。しかし、民謡として採録しなかったのは、即興的で、歌うたびに異なり、再現困難だったのではないか。当時のイマカンは、「シルダル」「ムト・ガガ」以外は、変化し続けるイマカンであったのだろう。しかし、「一新薩満」は、満州語のテキスト「尼山薩満」があり、歌の再現性が良く、歌も残っていてもよさそうな気がする。また、凌は物語の語り手の性別、年齢、姓名、あるいは地方など一切を語っていない。使用した言語がホジエン語であるとは、明言していないが、「口訳筆録」(通訳してもらったものを筆録)と記している。ホジエン語であったと思われる。

(4) 凌純声が採録した女子の歌

凌が採録した女子の歌は十九曲あり、大多数は不定形のリフレインである。次の歌は凌純声採録歌十五番の「狩に行く夫をおくる」女子の歌である。

xenene xenene xenene xenene

age-tile maumi gege-tile tonggengi

貴方は私の心に 貴方は私の胸に

beima-düle c'ile-xeni besejin-ji wei-le-xeni

白馬に乗り 白い布を首に巻き

lienjuccian-na be-le-xeni sisi jime de-laxami

連発銃を背に四十発の弾を持ち

xenene xenene xenene xenene

xeger-tine de -la-xami sensinje-la ene-ni

sebu-woni jafa-deni

age-tile mi-auni gege-tile ton-geng-ni

黒犬を連れて三姓街へ行き 狩ったテンの皮をもって あなたは私の心に 貴方は私の胸に

xenene xenene xenene xenene

ulidi-na son-leki wei-cun de-ji sau-lekuren

五里送ったらスカートと帯を買って

silidi-na son-leki seure fonku gajj-kuren

十里送ったら絹のハンカチを買って

xenene xenene xenene xenene

歌の中に漢語の単語 (bema 白馬、u 騎、boejim 白色巾、wei 罽、*linjucian* 連珠鎗、be 背、sisi 四十、de 帶、xegu 黑狗、ulidi 五里地、son 送、weicun 圍裙、sildi 十里地、seure 綢緞) が使用されている。漢語はそのままでなく、語尾にホジエン語の活用語尾が付き、語順はホジエン語である。当時既に漢文化の影響が大きかったことを示している。人口約一二〇〇人のホジエン族が住む東北地方には一五〇〇万人以上の漢族が流入しており、ホジエン族文化は漢族の文化の影響を大きく受けたと考えられる〔李治亭 二〇〇三年 五九一—五九五頁〕。一九八〇年代以降に採録されたイマカンの歌のリフレインもこの歌と同じ形式のリフレインである。

二 シャーマン神歌

「短文ナリフレイン *enani*」のような定形リフレインは、ホジエン語と同じ語族ツングース満州諸語に属する言語を持つ下記の周辺民族などのシャーマン神歌に多く見られる。①満州族の「尼山薩滿」の神歌、②エウエンキ族の歌謡、③オロチョン族の神降の歌やムスクン（語り謡いの史詩）の歌、④シベ族のシャーマンの歌、⑤モンゴル諸語のダワール族の神を招く歌や神が現れる歌である。以下にその例を挙げる。

(一) 満州族の「尼山薩滿」

「尼山薩滿」は、凌純声採取の物語「一新薩滿」の原本であ

る。間違つて死の国へ連れ去られた子の魂を取り戻しに、尼山シャーマンが陰界へ行った時、三途の川で追剥をしていた夫の魂と出会う。夫は生き返らせてほしいと頼むが、彼女は歌で次のように答える〔趙志忠 二〇〇一年 一一三—一一五頁〕。

<i>eigen haji</i>	<i>xalambi sulembi</i>	愛しい夫よ
<i>eksame donji</i>	<i>xalambi sulembi</i>	よく聞いてください
<i>haha haji</i>	<i>xalambi sulembi</i>	愛しい男よ
<i>hahlame donji</i>	<i>xalambi sulembi</i>	注意して聞いてください
<i>nekeleyen san be</i>	<i>xalambi sulembi</i>	薄い耳たぶを
<i>nefi donji</i>	<i>xalambi sulembi</i>	広げて聞いてください
<i>giramin san be</i>	<i>xalambi sulembi</i>	厚い耳たぶを
<i>gidafi donjireo</i>	<i>xalambi sulembi</i>	押し上げて聞いてください
<i>sini beye</i>	<i>xalambi sulembi</i>	貴方の体の
<i>siren sube lakcaha</i>	<i>xalambi sulembi</i>	筋や血管はすでに断ち切れ
<i>aifni bucefi</i>	<i>xalambi sulembi</i>	死んでから永い時間が過ぎ
<i>aikime niyaha</i>	<i>xalambi sulembi</i>	腐りはつ
<i>giranggi yali</i>	<i>xalambi sulembi</i>	骨も肉も
<i>absi wejibumbi</i>	<i>xalambi sulembi</i>	既に朽ち果えました
<i>haji eigen</i>	<i>xalambi sulembi</i>	今更蘇ることができない

「尼山薩滿」には、このようなリフレインが三十四種類 (*ara etikule yekule, heye hiyelu* など) あるが、*enani* というリフレインはなご。

(2) エウエンキ族の歌謡

「鄂温克族文学」は一八四〇年―一九四九年の各地に散らばったエウエンキ族の歌謡を集めている。次の歌は、定型のリフレインの形式である。

Sajignei Samajie	jiewen jiehulan	カササギが鳴く
Sawiwai Sangjirang	jiewen jiehulan	靴の甲を作る
Olienii Odrooldun	jiewen jiehulan	カラスが嘴でつづく
Ohwii temirengzhe	jiewen jiehulan	靴造りに忙しい

〔黄任遠・黄定天・白杉・楊治経 二〇〇〇年 一六二頁〕

(3) オロチヨン族の歌

オロチヨン族のシャーマン神歌は、シャーマンが神を招く歌で、周囲の人がシャーマンの祈祷に唱和して、祈りの言葉「yage yage yage ya」を唱える「王宏鋼・関小雲 一九九九年 二一五―二一六頁」。

(シャーマン)	(唱和)	
yage yage yage ya	yage yagi: yage ye	
a daya war a relo	yage yagi: yage ye	神に希う
agdi: ngo: yin yonasi:a:	yage yagi: yage ye	天から降り給え。
yi: krenjalei ali:io	yage yagi: yage ye	貴方に願うのは

oyigurna ken ali: lo:	yage yagi: yage ye	貴方が神ゆえに。
ardi:xa azendulo: argi: xolo: yage yagi: yage ye		小神よ、天から降り給え
ardixo xen o:zekensuo:	yage yagi: yage ye	是非降り給え。
tuu: osa ali:ien	yage yagi: yage ye	畏み畏み申す
aWu asin o:woke	yage yagi: yage ye	安らかに、穏やかに。
So:dan sar o:zedulaven	yage yagi: yage ye	大神よ、大神よ
Wo:da kisie esi: lamakelo:	yage yagi: yage ye	命を救い給え。
o:lho:nu: a Wan sia	yage yagi: yage ye	重い病を
esi:iani: a:ejatin a da ya	yage yagi: yage ye	治せるのはナイナイ神
guna kake ali: lo:	yage yagi: yage ye	貴方に希う
oyuo xo Vo: gu nenje	yage yagi: yage ye	多くの神がお聞きになる

オロチヨン族の語り謡いの史詩ムスクン「ブチハン・モルゲン」の断片が残っており、その中で歌われる次の歌は、定型のリフレインである。「ムスクン」は、ホジェン族の「イマカン」に相当する。〔孟淑珍 一九九三年 五四九―五五〇頁〕

bugikan megen	kun	ブチハン・モルゲン
bumaro eglamani okike eje udare	kuyaro	朝早くあなたを送ったあと
emnun ingagie makinnana inaren	kun	全身毛だらけの怪物が乱入し

juni jakawan sugde elegsamme	kuyaro	家中を探し回り
bujurwa kabjimme tabukinen	kun	私達二人を脇に抱えて
unge unge genemile bikin	kuyaro	ぎょちなく歩き
eri yelumalla emungenen	kun	大きな洞窟に連れ込んだ
bugirkan mergen etikkenio	kuyaro	ブチハン・モルゲン、夫よ
telimne iuje tol jakamma	kun	今は、怪物が外に出ていない
bu egri sigdekandan wktilar	kuyaro	私達二人はこの間に逃げよう
tuminin tohmanadu sowjanda	kun	怪獣に見つからぬように
u sgni obu dutanni udare	kuyaro	洞窟にはいられない

(4) シベ族のシャーマン神歌

シベ族の神歌は、満州語の写本に残っている。その中に①遊神(神を招く)②求神(神に願う)③告神之神歌(神のお告げ)④祈祷書⑤治病送崇神歌(病を治す、厄除け)がある。次の歌は、シャーマンの病氣治療の祈祷の歌である「納喇二喜传写一四一一二〇六頁」。

ahai jahai	hofin dari	アハイジャハイ
jahai juhei	inekun dari	ジャハイジュヘイ
hoso hoso de	hofin dari	あちこちに
honggon jigagan	inekun dari	鈴の音
hokkonde donjici	hofin dari	いび聞くと
honggon jigagan waka	inekun dari	鈴の音でもな

jashur hala i	hofin dari	ジャスフリ氏族の
nara hala i	inekun dari	ナラ氏族の
tumen wecekui	hofin dari	一万のウオチンの
hoboro jigagan	inekun dari	合唱の声は
mdudan mdudan de	hofin dari	(幾度も幾度も)?

(5) ダワール族の歌

ダワール族の祭り「オミナ」「オミナル」のとき、氏族の安泰を祈願する神歌を示す。各句の後にリフレインがつく。「王宏剛・于晓飛 二〇〇三年 九七頁」

神を招く歌	レガモ、レガ
天門地門全て開け	レガモ、レガ
シャーマン信者は神を招く	レガモ、レガ
部落は難があり急ぎ	レガモ、レガ
祟りを起こした鬼を教え	レガモ、レガ

神が現る歌	グイラヤ	グイラ
万能の神が現れ	グイラヤ	グイラ
祟りをした妖怪は逃げた	グイラヤ	グイラ
光芒と香が人を照らし	グイラヤ	グイラ
災い病を無くし幸長く	グイラヤ	グイラ

吉祥の歌

心から神を祀れば長生き グイラヤ グイラ
心から神を敬えば好い運 グイラヤ グイラ
線香を上げ仏に供え吉祥 グイラヤ グイラ
踊り仏を拝めば災難消え グイラヤ グイラ

三 一九五〇年代から一九八〇年代以降のイマカン

一九五〇年代から一九八〇年代以降に採取されたイマカンの漢訳は三十四編ある「黒竜江省民間文芸家協会 一九九七年」〔黒竜江省民間文芸家協会 一九九八年〕。また、ホジエン語で記されたイマカンも数編あるので、すべての歌のリフレインを調べてみると次のとおりになる。

(1) 「アントウ・モルゲン」

一九五五年呉進才が語り歌うイマカン「アントウ・モルゲン」を、尤志賢が聞き、それを元に漢語訳を書き、再び一九五七年に呉進才に確認を取りながら修正して完成させた。一九五八年の中国少数民族文化調査のときに、尤志賢が通訳および口承文学・民謡採録の担当者として加わり、彼が漢語のまま「アントウ・モルゲン」を報告書に書いた。そのとき歌の部分全てを散文に変えたため、本来のイマカンの歌の形式が失われてしまった。一九八一年ホジエン族文化遺産発掘調査のとき、失われたつあるイマカンを救うため、研究チームが結成された。そのと

き彼は、アントウ・モルゲンの元の資料から歌の部分を再現して、再編集したイマカンを発表した〔黒竜江省民間文芸家協会黒竜江分会 一九八一年一一二七頁〕。歌は再現されたが、最初にリフレイン「ハリラ ハリラ ナニ ハリ ゲイゲ」などを規則的に加えただけである。呉進才が実際にどのような歌ったかは不明である。

一九五七年の調査報告の中にイマカンについて以下のように記されている。「伊玛堪是故事之意、但与一般故事不同、不仅情节、而且合辙押韵、形同一部长篇史诗、例如前一句的起头是啊音、第二句起头也必须是啊韵。这些词句都是背诵的、不同于一般小故事那样随便分枝生叶。在讲法上有说有唱、有固定规律的伊玛堪调、如同汉族的大鼓书和评书一样、也和蒙古族的说书一样说与唱是有规律的、既叙述、又把故事中的对话要唱出来。但说伊玛堪时无需乐器伴奏。」〔民族問題五種叢書黒竜江省編輯組 一九五七年 一七九頁〕翻訳すると、「イマカンは物語の意味であるが、普通の物語と違う。長編であるだけでなく、韻を踏む長編史詩である。例えば前の文がア音で始まれば、次の文は必ずア音で始まる。このような語句は記憶しており固定で、普通の物語のように変えることが出来ない。演じ方は、語りと歌があり、固有のイマカンのリズムを持ち、漢族の大鼓書や評書、モンゴルの説書と同様で、語りと歌が規則的にあり、語り、台詞は歌われる。イマカンを演じるときは楽器による伴奏はない。」ここから判断すると、イマカンの歌は規則的に固定された語句

があり、リフレインを持っていたと思われるが、実際に歌を記録したものは存在していない。

(2) 「シルダル・モルゲン」シャーマンの神降の歌

唯一この歌が定形リフレインである。「黒竜江省民間文芸家協会 一九九八年 一七一—一七三頁」

xelai nixele

nani xelai nixele

四面八方、各位神灵、

nani xoguyage

请你们都听真、

nani xelai nixele

木回爱米神、

nani xoguyage

护身的萨日卡神

nani xelai nixele

熊神鹿神

nani xoguyage

布谷啄木引路神

nani xelai nixele

祖辈供奉过的所有神灵

nani xelai nixele

听到我的喊声赶快降临

nani xelai nixele

nani xoguyage

nani xoguyage

我们用南山的乌鲁古力

南山の怪獣ウルグリを
捧げ

诚心祭祀你哟

nani xoguyage

诚心诚意神を祀ります

一尝一尝这里供奉的肉吧

nani xelai nixele

捧げた肉を味わってくだ
ださい

喝一喝这里祭祀的酒

nani xoguyage

捧げた酒を飲んでくだ
さい

(以下続く)

一九五〇年代以降採取の漢語訳イマカンの歌は、上記以外はすべて不定形リフレインである。

(3) ホジエン語で記されたイマカン

ホジエン語で記されたイマカンには、①尤志賢がホジエン語訳したイマカン「アントウ・モルゲン」[尤志賢 一九八七年]、「シャンソウ・モルゲン」[尤志賢 一九八八年]、「マンドウ・モルゲン」[尤志賢 一九八九年 四—二七八頁]、「サルン・モルゲン」[尤志賢 一九八七年 二七九—四六二頁]、②傅万金がホジエン語訳したイマカン「シルダル・モルゲン」[傅万金 一九八七年]がある。

ホジエン語で記されたイマカンには、元のイマカンの歌に近いものがないか調べた。尤志賢と傅万金は、一度漢訳されたイマカンをもとに、ホジエン語に翻訳し、国際音標文字を用いて表記した。その中の歌には、定型のリフレインのものはなく、すべて不定形のリフレインである。もし、彼らが定型のリフレ

インの歌が、以前口承されていたことを知っていたら、そのように再現した歌が一つはあってもよいと思われるが、一つもない。筆者が葛徳勝の語り歌「ムドリ・モルゲン」のテープを聴き、テキスト化したとき、漢語由来のホジエン語単語が所々にあった。しかし、葛徳勝の語り歌「マンドウ・モルゲン」を基にした尤志賢のホジエン語訳には、漢語由来の単語がざっと探した範囲ではなかった。意図的に、尤志賢が使用しなかったと思われる。尤金良のイマカンには、よくホジエン語化した漢語がいくつも現れたのと対称的である。

(4) 尤金良が語り歌ったイマカン「シタ・モルゲン」

「カンタ・モルゲン」

筆者はホジエン語で歌われるイマカン「シタ・モルゲン」〔于曉飛二〇〇一年〕、「カンタ・モルゲン」〔于曉飛二〇〇五年〕を直接テキスト化した。

二〇〇一年に尤金良が語り歌った「シタ・モルゲン」の歌には、始めと終わりに長いリフレインがあり、途中にリフレインの文や句が挿入されている。この形式は凌純声が採取した女子の歌の形式とよく似ている。

二〇〇〇年に尤金良が語り歌った「カンタ・モルゲン」の内容は、凌純声が採取した物語「ガメンジュ・ガガ」と同じである。登場人物の名前が少し異なっている。また最初の章が大幅に追加され詳細化している。歌の形式は、不定形リフレインのみで

ある。カンタの病が治るように祈るシャーマンの祈りの儀式でも、歌はシャーマン神歌のような定型のリフレインにはなっていない。

(5) 葛徳勝が語り歌った「ムドリ・モルゲン」

一九八〇年に葛徳勝が語り歌った「ムドリ・モルゲン」の録音テープ全八巻を手に入れ、その第一巻、第二巻をテキスト化した〔于曉飛二〇〇七年〕。そして、これを、尤志賢の漢訳、曉寒の漢訳と比較対照した。その結果、次のことが判明した。

①尤志賢の漢語訳(全)は、直訳に近いが、文章は整形されている〔黒竜江省民間文芸家協会黒竜江分会一九九〇年一〇六頁〕。

②曉寒の漢語訳(前部分のみ)は、説明的部分が加わり、内容が詳細化している〔黒竜江省民間文芸家協会黒竜江分会一九九〇年一〇七一―一九〇頁〕。

このことから、漢訳されたイマカンは、漢語の読み物として解りやすく、面白くするため、またホジエン族固有の文化を説明するため、大幅に変更されることが分かる。歌は不定形リフレインのみであるので、ホジエン族出身の研究者でも、イマカンに定型リフレインの歌があったことを知らないようだ。葛徳勝のテープを聞くと、歌には xei'nan' xei' のリフレインがよく現れるが、一九三〇年代の民謡の *chan'* とよく似ている事は興味深いことである。

葛徳勝の語り歌いから次のように考えられる。葛徳勝は、漢語のテキストを作っていた、または、頭の中で漢語の物語を作成していた。葛徳勝の息子の話では、普段イマカンを漢語で語っていた。若いホジエン族の人がホジエン語を十分に理解できなくなっていたためと思われる。

四 漢語文化の影響

ホジエン族の住む周囲には、一五〇〇万人以上の漢族が住んでおり、実生活において漢語も使用した。一九五〇年代漢語教育普及とともに、現在はホジエン語が消滅寸前でもある。では、イマカンは、ホジエン語で語られたのだろうか。

(1) イマカン演奏に使用された言語

前述のように凌純声は、物語が語られた言語を明言していない。ただ、「口訳筆録」と記しているのが、ホジエン語で語られたと思われる。

①一九五五年、呉進才が「アントウ・モルゲン」を語り歌うのを聞き、尤志賢が記憶を元に筆録し、翻訳を呉進才に確認して出来上がった。これが、文献に、初めて登場する「イマカン」で、一九三〇年以降初めて記録された物語である。

②一九六二年、蘆明が「シャルチュ・モルゲン」を漢語で語り、ホジエン語で歌った。

③九六二年、毕張氏が「マンガム・モルゲン」を語り歌ったが、漢語かホジエン語か不明である。

④一九七九年、尤樹林の「マルトウ・モルゲン」は、八歳とき尤貫連が語り歌ったのを聞き憶えたもので、六十年後に再現した。忘れた部分も多く、思い出しながら補った。ホジエン語と思われる。

⑤一九八〇年、呉連貫は「ムジュリン・モルゲン」を漢語で語り、ホジエン語で歌った。

⑥一九八〇年代、葛徳勝は多くのイマカンを語り歌った。彼の息子によると普段は漢語でイマカンを歌った。文化保存のため、研究者にはホジエン語で語り歌った。同席した黄任遠によると、漢語のメモが存在したとのことである。

ホジエン語でなく、漢語が使用されるのは、漢語文化が浸透しており、若い人たちはホジエン語を理解できなくなったためと思われる。

(2) 漢族の民間芸能「大鼓」の影響

凌純声は「彼らの語り方は漢人が演じる大鼓書と同じである。一段語ると、一段歌う、そして再び語る。男の歌は大部分物語の一段で、説書人（大鼓芸人）を真似たものである」〔凌純声一四六頁〕と記している。

呉連貫は、子供のころ書館で芸能を一日中聞き、帰りの船の中で演じた。葛徳勝の息子は、「父は一九七九年頃、退職してか

らイマカン語り始めた。父は若い頃、説書（日本における講談のような語り芸能）を聞くのが好きで、家から二三里の富錦県にある数軒の書館（説書が演じられる演芸所）に週一回程度通っていた。叔父の葛長勝も行った。皆漢語で、叔父は「岳家将」など沢山の古書（古典）を演ずることができた。父は歴史ものが好きで、説書聞き、本を読んだ」といつている。呉連貴の長男は、「父呉連貴は字が読めないが、イマカンを覚えていた。」三十七・五十八年、街津口に住んでいた。そこには五十世帯住み、朝鮮族、漢族、満族、回族、ロシア人がおり、八割がホジエン族で、共通語は漢語であった。村には何もなく、買い物は同江に行く。同江には書館があった」といつている（二〇〇六年八月筆者調査）。イマカンの有名な歌い手が、このように民間演芸を好んでいた。ホジエン族の居住した村の周辺には漢族の街が多くあり、「歌い」・「語り」の伝統的民衆演芸である「大鼓」や「説書」が非常に盛んで、ホジエン族の人々もイマカンの歌い手を含めてこれを好んでいた。

イマカンは口承で伝わる文芸であるが、一面、話芸としての性格をもち、そこに民間芸能であるこれら「大鼓」「説書」との共通性を有する。しかし、エウエンキ族の「摩蘇昆（マスケン）」・満族の「徳布徳林（ダブダリン）」など、周辺の民族が説唱文芸を持つので、元々語り歌う形式はホジエン族にも存在したと思われる。

（3）凌純声の意見

凌純声はホジエン族の物語について、次のように語っている。「ホジエン族の物語の魔法や超能力は、彼ら固有のものでなく、周辺多くの民族と共有している。中国文化の影響として、唐宋元の時代と燕京、洛陽の地名が出ている。直接中国人との接触は少ないかもしれないが、満州族を通して接触している。①狐仙物語、②結婚式の祖先崇拜、竈崇拜、夫婦髪結びの習慣、③鏡を投げる（中国では刺繍のボールを投げる）、④奴隸と移民、⑤神女と月へ行く、などの共通性がある。」

また、「ホジエン族の特徴は、英雄が凱旋後、城を作る内容が多いが、ホジエン族の住む地域には多くの古代遺跡があった。七星位子の伝説、ゾロマファ・ゾロママの伝説、仙道修練（女性）、女性のシャーマンの高い能力、ウンビアオマファ・ママの伝染病、ホジエン族の物語の魔法や超能力は、彼ら固有のものでなく、周辺の多くの民族と共通している。資料が少ないため、どちらが先かの判断は難しい。ホジエン族の物語は、他の民族のものとは比べて構成が整っている。ホジエン族が、魔法や超能力を英雄物語に巧みに挿入しているのは、彼らが創作力に富んでいるからだ」と凌純声は言っている。

（4）変遷するイマカン像

以上のことから、イマカンの変遷を考えると、一九三〇年代

は、ホジェン族の狩猟漁業採集経済に根差した文化があり、そこに物語を語り歌う演芸があったが、当時も漢文化と周辺民族の文化を部分的に取り入れていた。しかし、一九八〇年代になると、一九五〇年以降の漢語教育の普及により、中年以下の人はホジェン語を理解できなくなった。しかし語り歌う演芸は、使用する言語が漢語に代わって存在し続けた。少数民族の文化保存運動を機に、一九三〇年代の語りを再生させたものが現在のイマカンである。内容は、凌純声が採取した物語を基に新たに創作したものが加えられた。しかし、歌の形式はシャーマン神歌ではなく、民謡に基づいた形式へと変化したということではないだろうか。

まとめ

以上の経緯を踏まえてイマカンの変遷を考えると、次のように言えるのではなからうか。つまり、一九三〇年代まで、「物語」を語り歌う演芸形式がホジェン族にあった。その内容はホジェン族のものが多いが、満州族の尼山薩満を借用した「一新シャーマン」や旧約聖書から題材をえた「ナウオンバルジュン」など、すでに周辺民族の文化からの影響が大きい。芸形式も漢族の民間芸能「大鼓」「説書」の影響も大きい。一九三〇年代のイマカンの歌はシャーマン神歌に似た形式であったが、一九八〇年代のイマカンの歌は、民謡の形式である。これから考えると、一九八〇年代に、凌の物語の記録とホジェン族の人の記憶をも

とに、「イマカン」として復古されたためと思われる。ホジェン語を理解できる聞き手がいないため、ホジェン語でイマカンを演ずることができないこともあり、文字化されていない口承文芸の運命として、時代と共に変遷していったのであろう。

この研究で得られたことは、イマカンにおける歌の果たしている役割は、単なる付属物であるにとどまらず、口承文芸やシャーマニズムの儀式そのものを位置付け、性格決定する本質的で重要な要素だということである。しかしながら、ときにこのことが忘れられ、凌氏の資料収集においても技術的、思想的の両面においてその点配慮が十分でなかった。この分野の研究の基本的視点としてこのことを確認し、今後の研究の指針としたい。

参考文献

- 凌純声『松花江下流の赫哲族』一九三四年 南天書局有限公司
民族問題五種叢書黒竜江省編輯組『赫哲族社会歴史調査』
一九五七年 黒竜江省朝鮮民族出版社
劉忠波『赫哲族社会歴史調査』一九八一年 中国社会科学院民族研究所
黒竜江省輯組『民族問題五種叢書』赫哲族社会歴史調査』
一九八六年
傅万金『滿語研究』一九八七年 黒竜江省滿語研究所 第一卷
第四卷

尤志賢『満語研究』一九八七年 黒竜江省満語研究所 第一巻
―第六巻

尤志賢『満語研究』一九八八年 黒竜江省満語研究所 第五巻
―第一五巻

尤志賢編集『赫哲族伊瑪堪』一九八九年 黒竜江省民族研究所
黒竜江省民間文芸家協会黒竜江分会 一九八一年『黒竜江省民間
間文学』第二集

黒竜江省民間文芸家協会黒竜江分会『黒竜江省民間文学』第
二一集 一九九〇年

徐昌翰・黄任遠『赫哲族文学』一九九一年一月 北方文芸出版社
納喇二喜傳写・永志堅編译『薩滿神歌』一九九二年 天津古籍
出版社

(これは一八八五年満州語の手書き写本『薩滿神歌』とその漢
訳とそのローマ字表記満州語を一冊の本にまとめたものです。)
孟淑珍整理『鄂倫春民間文学』(中国少数民族古籍) 一九九三
年 黒竜江省民族研究所

黒竜江省民間文芸家協会『伊瑪堪』(上)一九九八年『伊瑪堪』(下)
一九九七年 黒竜江人民出版社

王宏剛・関小雲著・黄強・高柳信夫他訳『オロチョン族のシャ
マン』一九九九年 第一書房

井口淳子『中国北方農村の口承文化―語り物の書・テキスト・
パフォーマンス』一九九九年 風響社

黄任遠・黄定天・白杉・楊治経『鄂温克族文学』二〇〇〇年

北方文芸出版社

超志忠『薩滿的世界』二〇〇一年 遼寧民族出版社

関紀新主編『中国少数民族俗文学』二〇〇一年 内蒙古教育出
版社

于晓飛『シタ・モルゲン』『叙事詩の学際的研究』千葉大学大
院社会文化科学研究科 二〇〇一年 二〇七―二九一頁

王宏剛、于晓飛『大漠神韻―神秘的北方薩滿文化―』二〇〇三
年 四川文芸出版

李治亭編『東北通史』二〇〇三年 中州古籍出版社

于晓飛『ホジエン(赫哲)族の歌』『アジア遊学』二〇〇四年五
月 八三―九三頁

于晓飛『消滅の危機に瀕した中国少数民族の言語と文化』

二〇〇五年 明石書店

于晓飛『イマカン カンタ・モルゲン』『研究プロジェクト報告
ユーラシア諸民族の叙事詩研究(2)テキスト化の概要と解説』

千葉大学大学院社会文化「科学研究科 二〇〇五年 八〇―
二四二頁

于晓飛「テキスト化を通してみたイマカン像―一九八二年に録
音されたイマカン「ムドリ・モルゲン」」『ユーラシア言語文化
論集』一〇号 千葉大学 二〇〇七年

于晓飛「ホジエン族の語におけるリフレインの役割について」『ア
ジア民族文化研究』八号 二〇〇九年三月 八一―〇九頁

(ウ・シヨウヒ/日本大学)